

2019年度PMからのメッセージ

氏名・所属:竹迫 良範(株式会社リクルートテクノロジーズ 執行役員)



略歴:

2002年 3月

広島市立大学 情報科学部 情報機械システム工学科 卒業、
知能ロボット講座(現:パターン認識研究室)にて自然言語処理を研究

2002年 2月

株式会社ドリームアーツ 入社、mod_perlにおけるC10K problem対応、
大企業向けEIP製品の開発、大規模対応・国際化(i18n)を担当する

2005年11月

サイボウズ・ラボ株式会社 入社、中長期R&D基盤技術の開発、
セキュリティキャンプ講師、U-20プログラミングコンテスト審査委員、
SECCON実行委員長などで産学官連携のIT人材育成に携わる

2015年 9月

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ 技術フェロー

2017年 8月

株式会社メルカリ 技術顧問

2018年 4月

国立高等専門学校機構 高知工業高等専門学校 客員教授

2018年 4月

株式会社リクルートテクノロジーズ 執行役員

専門分野:

セキュリティ技術全般、バイナリ、
低レイヤー、ネットワーク、IoT、
組込機器開発、開発基盤ツール、
プログラミング言語、人材育成

メッセージ:

筋の良い「車輪の再発明」は大歓迎です。車輪の再発明とは、既存のライブラリや先行事例があるにもかかわらず、似たようなプログラムを自分で一から作ってしまう行為のことです。現代は効率良くプログラミングできる開発ツールやライブラリが豊富にあり、複数の要素を組み合わせでインテグレートするだけで目的のアプリケーションを少ない工数で作ることができるようになりました。既に誰かが同じようなことを実現するライブラリが存在するのに、それを自分で一から作ってしまうと生産性が良くないと外野から指摘されることがあります。しかし、それで本当に新しいイノベーションや技術革新は生まれるのでしょうか。むしろ、今の時代こそ、アプリケーション層のプログラムを実装する際にも、低レイヤーの技術にも精通し、下から上まで一気通貫でモノを作れる技術を有して手を動かしていることの方が競争優位性になり得ます。物事の原理原則を理解した上で型を上手に破り、自分の新しい型を作る、そんな試行錯誤の中で新しい技術革新が生まれることがあります。学習目的のために車輪の再発明をすることもありますが、未踏ではそれ以上の価値が求められます。成功するまで継続するために、自分で一からコードを書くのが大好きで、プログラミングそのものに熱中できる情熱も重要です。その結果、世界に新しい価値を一つでも提供することができれば、胸を張って未踏の領域に踏み込めたと言えるでしょう。車輪の再発明でも大歓迎、実装が大変でも自分が情熱を持って続けられる、内発的動機に基づいた提案をお待ちしております。

審査基準:

1. 課題設定力
未踏の新領域に進出するための独自性・革新性のあるテーマ設定ができているかどうか
2. 問題解決力
自分で設定した課題を解決するために必要な技術力・問題解決力を有しているかどうか
3. 技術の幅と深さ
誰にも負けない技術の幅と深さがあり、自分達で開発する意義・優位性があるかどうか
4. 将来性
終了後もさらなる発展が望め、社会的インパクトを与える可能性を秘めているかどうか
5. まなび
本プロジェクト遂行によって、個人と社会のそれぞれで新しい学びが得られるかどうか